

# チム九

印刷を支え加工を活かす

## 工場本部 本社工場 嶋隆信

1990年平成2年5月、旭紙工株式会社に中途入社した嶋隆信さん。本社工場で長年働き続けている中で、心がけている点、苦い経験や今後の目標について伺いました。



### まずは、入社のきっかけを教えてくださいませんか。

友人の紹介です。求めている仕事内容だったことと、面接の際に常務（現社長）と話が盛り上がり、入社を決めました。現在は主に、カタログにはがきを糊で貼り込む機械作業と、異なるペラを揃える丁合の機械作業を担当しています。

似たような作業が多く、強く印象に残るような成功体験は少ないのですが、自分の中で設定しているノルマを早い時間で達成できた時はやりがいを感じます。

貼込仕事は単価が安いので、成果を上げるべく2丁貼込を3丁貼込に変更する工夫をして、作業に当たっています。入社当初は剥離紙のセッティングなど、難しく感じる作業も多かったのですが、だんだんと慣れてきました。

慣れない作業や失敗を乗り越え、ひたむきに仕事を続けてきた嶋さん。培ってきた技術を後輩に伝えるためにも、今日も丁寧、正確、そして迅速に。これからもコツコツと成果を積み上げていくことでしょうか。



### 仕事をやるうえで、どのような点を大切にしていますか。

いかにお客様の要望に寄り添えるかを常に意識しています。希望通りに納品するためには、どのような項目を重視すれば良いのかを考え、それに合わせた検品体制を整えることが大切です。良い仕上がりでの納品はもちろんのこと、クレームを未然に防げるように作業方法を工夫するのも仕事の1つです。

### 失敗した経験はありますか。

貼込仕事で、はがきの擦れに気付かずそのまま納品してしまった時のことです。お客様からのクレームで発覚し、社員数人で納品先に赴き、再検品をする事態に。予備もなかったため、擦れた部分を回収し、消しゴムでその部分を丁寧に除去し、再度納品しました。

原因は、慣れからくる自己判断。何人かで検品をしていたら誰かが気付いていたかもしれない

### 最後に、今後の目標をお聞かせください。

現在自分が担当している仕事を、後輩にしっかりと教えていくのが目標です。一人ひとり覚える速度や、得意不得意も異なるため、個々に合わせて指導できると考えています。

旭紙工は、協力的体制がしっかりとっており、とても働きやすいと感じます。何をすべきか、どこにあるのか、どんな会話があったのかなど、具体的な状況把握をしながらサポートしてくれる。後輩たちも、そのように周りをしながら、協力し合え

### 企業情報

- ◆ 創 立 年 : 1983年1月
- ※ 創 業 : 1963年
- ◆ 年 商 : 15億円
- ◆ 従 業 員 数 : 200人

※ 2018年12月実績



# 設備紹介

## 丁合機 B2

私が紹介します!

今回はカレンダー製本に用いられる丁合機、B2をご紹介します。  
普段は他部署の方も馴染みのない機械を知るため、  
ぜひ記事を読んでみてください!



まつお たけし  
**松尾 剛志さん**  
工場本部 本社 課長

### カレンダー作りの必需品

#### Q.どのような機械なのでしょう?

カレンダー製本における、丁合という工程で活躍する機械です。カレンダーは印刷・裁断・丁合・製本という順番で行われるのですが、丁合というのは表紙から12月まで、1枚ずつ重ねていく作業。B2は本社工場に1台のみで、15段・4Mにものぼる大きさです。他の媒体の丁合に用いることもできますが、我々は基本的にカレンダー製本にのみ使用しています。

### B2が持つ長い歴史

#### Q.現在の設備はいつ導入されたものですか?

私が入社したのが20年前なのですが、30~35年前から導入されていると伺っています。カレンダーの性質上、3か月という限られた期間にフル稼働しなければならないため、特に当初は不具合が多かったそうです。現在はそれを減少させるため、稼働前は業者の方に機械の全体を点検・メンテナンスしていただいています。

### 絶賛研修中

#### Q.現在この設備を使用できる方は何名いますか?

私を含め5名です。タイからの実習生の方にも、使用方法を指導中。カレンダー製本全体の人数は約30名。その中でB2を操る人はカレンダー業務全般に精通しているベテランが多い印象です。

### B2を操る大ベテラン

#### Q.その中で一番「達人」な方を紹介してください。

嶋 隆信(しま たかのぶ)さん  
約30年勤務している大ベテラン。耳に障害を持っており、機械の音を聞き取れないのですが、他の五感を駆使してB2を動かしています。機械の音が聞き取れないことで、作業は何十倍も大変になっているはずなのに、難しい素振りも見せずB2を操る姿に脱帽です。

### 積み間違いは気をつけて!

#### Q.使用上での注意点はどこでしょうか。

使用者が操作ミスしないことです。丁合の際に入れる順番を間違えてしまうと、乱丁本が大量にできてしまい、取り返しがつきません。現在、タイの実習生にも教えているのですが、特にこの点は身振り手振りで念押ししています。余談ですが、教える際にはまずやらせることを意識しています。実際に体を動かさないと覚えることはできませんから。彼は学習意欲が高く、覚えも早いため、とても助かっています。



### 失敗は成功のもと

#### Q.その設備を使用しての一番思い出に残っていることはなんですか?

200万冊以上のカレンダーを発注されたことです。莫大な量を製本しなければならず、工場がパンクしかけました。この出来事を機に、社内物流を簡素化したり、機械の配置を変更してみたりと様々な改善を試みました。これにより、カレンダー製本業務の負担軽減に成功。結果としては会社に良い影響があり、実際に2020年も滞りなく作業を遂行することができました。

### 試行錯誤の日々

#### Q.今後の目標は?

個人の目標としては、2020年にできなかったことに取り組みたいと思います。具体的には、商品のラベルの手配や作業員への指導。これらを少しおろそかにしてしまったので、今後は積極的に改善します。チームとしては清掃に気を配れるようになりたいと思います。2020年は現場の整頓が整っていない時期があり、そのせいで現場の混乱が生まれかねない状況でした。今後はメンバー一人ひとりが「気づいたときに片付ける」を合言葉に整理整頓に取り組んでいきたいと思っています。

### 縦横無尽に働くベテラン

マルチ部門  
中津和典(なかつかずのり)さん  
25年以上工場に勤める、こちらも大ベテラン。B2はもちろん、他の作業も精力的にサポートしていただいております、とても感謝しています。





# 謹賀新年 2021年の抱負

あけましておめでとうございます！橋野社長に2021年の抱負を伺いました！

## ◆会社総論

昨年は日本中が、そして世界中がコロナ一色に染まりました。年の初めには思いもよらなかったことが次々と起こりました。最初はサブズとかマーズのように中国国内の問題だと思っておりましたが、瞬間に世界中にコロナが広がり大災害として全人類を飲み込みました。そのため印刷業界の世界的な行事であるドルッパが中止になり、東京オリンピックも延期になりました。このような大災害は私の記憶にはありません。一体、いつになれば終息するのか。現在のところその兆しすら見る事ができません。そしてコロナ感染拡大防止の為、政府が色々な手を打ちました。その第一が人の流れを止めることでした。人が動けばコロナが拡大する。コロナの拡大を防ぐためには人の動きを止めなければならない。その論理は理解できますが、そのことによつて経済災害ともいえるくらい経済が極端に落ち込みました。

当社においてもコロナ対策による経済災害の大波を真正面から受けました。4月までは比較的順調だったものが、5月6月7月8月と仕事がなくなり見たこともないような赤字になりました。その時にはたくさんの人に休んでいただきました。しかしながら、9月からのカレンダーで利益が出始めました。一般物も忙しくなり、最終的には若干ではありますが賞与も出すことができ、利益を出した状態で昨年を締めくることができました。印刷業界と一口に言っても様々な業態があります。金属に印刷をしている業態。プラスチックに印刷をしている業態。ケースや日用品。または書籍や出版など様々な業態があります。色々な印刷の業態がありますが、当社の属する商業印刷分野がコロナによる経済災害の影響を大きく受けた分野だと思います。その中であつて利益を出せたことは誠に素晴らしい快挙であると思います。おそらく日本中で当社だけではないかというくらい思っております。みなさんのご協力の賜物と心より感謝申し上げます。

このコロナによる経済災害はすでに乗り越えることができたわけではなく、これからも経済災害は継続されると思いますし、いつまで続くか予測がつきません。昨年は国の施策としての経済災害であつたため、休業補償など政府からの援助が少なからずありましたが、今年はその政府からの援助が見込めないと考えたほうが妥当でしょう。この経済災害を今年には当社だけの力で乗り越えていかねばなりません。

そのため、営業本部は新規開拓と仕事量の確保を念頭に置いた活動をお願いします。そして工場本部においては不良を出さない事、効率を上げて利益の確保をする事をお願いします。

世界中のすべての会社の共通点は利益を出さないと生き続けることができないということです。世界中を覆う大災害の中でも利益を出し続けていかなければならないということを宣言して私の年頭の所感といたします。

今の当社の課題をお話しておきたいと思ひます。

昨年は工場内監視カメラを大量に増設し、折り機の店名混入防止カメラを増設し、中綴じ機のセパキヤリを新規で導入いたしました。工場内監視カメラは不良が出た時の作業記録として非常に重要な役割を果たしてくれております。また、店名混入防止カメラは折り作業時の店名混入と印刷時での店名混入を検知してくれます。中綴じ機のセパキヤリは検品のしにくい三方断裁不良や中ページの折れこみ、中綴じ本の店名混入防止に役立っております。総額にすると数千円もの投資をしたわけです。これらの投資によってお客様からは安心をしていただける工場に近づきましたが、それでも不良が発生します。最近に発生している不良は、『片付けができてなくて混入した』『機械が停止しているのに不良を排除せずに再スタートした』『指示や連絡が行きわたってなかった』ことなどが原因になっています。ほとんどは機械操作などの教育をきちんとやり直すことで解決できると思ひますが、防止するためのセンサーもなければ装置もありません。すべて皆さんの注意力や製品を作るための心がけに頼らざるを得ません。今年には、こういった注意力不足や誠意のない不良をなくしたいと思ひております。

昨今は『物』を売ることから『こと』を売ることに時代が変わっております。例えばジャパネットたかたは、電化製品を売ることから電化製品を使う楽しさを売ることに成功をした第一人者です。車のコマーシャルも『安全』とか『安心』をキーワードにしたものに变化をしております。私たちは、印刷会社の下請けをしております。その場合は『安心』と『信頼』ということを売らなければなりません。

一人一人の協力でお得意先から『安心』と『信頼』を勝ち取れる会社に成長をしたいと思ひますので、どうかよろしくお願ひします。

## ◆会社の目的

早く帰れて給料の良い会社、かつ情のある会社を目指す。

会社の目的の『早く帰れて給料の良い会社、かつ情のある会社を目指す』という目的を達成するため、徹底的に機械の回転と稼働率にこだわり、無駄を省く年にしてまいりたいと思ひます。また、価格の良い仕事を受注するために少しでも川上の方へ受注先を変えていきたいと思ひておりますが、そのために当社の努力すべきことは川上に近いお得意先を開拓することと不良を出さないことです。昨年も皆さんの努力で不良数が少なくなりましたが、お客さんから信頼をされる状態にはまだまだ程遠いものがあります。是非ともこの目的を達成するために不良をなくしていきたいものです。

## ◆経営理念

- ・ 印刷を支え加工を活かす。
- ・ 職場を人生の道場と定めたゆめぬ努力を続けよう。
- ・ 全従業員の物心ともの幸福を追求する。
- ・ 誠実に良い商品を納品する。

## ◆当社の判断基準

1. 安全
2. 顧客満足
3. 顧客満足

## ◆テーマ

- ・ 使ったものを元に戻そう。
- ・ 要らないものは捨てよう。
- ・ 連絡報告をきちんとしよう。
- ・ 社内ルールを守ろう。



毎年テーマを掲げて仕事をしておりますが、今年もテーマを掲げました。

今年には『連絡・報告をきちんとしよう』『社内ルールを守ろう』を入れました。『使ったものは元に戻そう』『要らないものは捨てよう』は昨年と変わらずに続けたいと思ひます。『連絡・報告をきちんとしよう』という言葉が今年のテーマに入れた理由は、『連絡・報告』は会社の生命線です。連絡と報告が適切でない会社は滅びます。どういう時に連絡と報告をしなければならぬか。

これは立場や仕事の内容により異なりますが、

1. 作業中に異常があつたとき
2. お得意先の指示や指示に変更があつたとき
3. 支給されている刷り本や具材に不具合があつたとき
4. クレーム
5. 朝礼などの徹底事項
6. その他、該当メンバーで共有するべき事項が発生した時 などです。

『連絡報告をきちんとしよう』とは、基本的なこととして下から上には報告、上から下には連絡という表現になるかと思ひれます。従ひまして社内ですることの殆どが連絡報告になるにしても過言ではありません。また、使ったものを元に戻さない人・要らないものを捨てない人と同じくらい、いやそれ以上に連絡報告をしない人が一人存在するだけで会社の流れが悪くなります。今年には使ったものを元に戻さない人・要らないものを捨てない人、そして連絡報告をしない人を出さないように進んでいきたいと思ひます。次に、『社内ルールを守ろう』については、まずはルールそのものを守れるものかどうかを見直す必要があります。不良が出た時の勢ひでルールを作り変えることが見受けられますが、まずは不良が出た原因としてルールがおかしいのか、ルールを守らなかつたのか。そしてルールが徹底されていたかを見直す必要があります。ルールがおかしければ、きちんと現状に相応しいものに作り変える必要があります。また、新しく決めたルールには例外なく従わなければなりません。交通ルールはよくできたルールだと思ひております。交通ルールが有るお陰で、車や自転車や歩行者が沢山入り乱れても交通事故が頻発せずに済んでおります。誰かが急いでいるときは赤信号を守らなくても良いだとか、どうしても左側が好きではないから右側を走るとか、ルールを守らない人が出ると事故の原因になります。ルールそのものは人間が作るものですから完璧なものができませんが、だからこそ常に見直してより良きものに作り変える必要があります。また、それを徹底していく必要があります。今年には『社内ルールを守ろう』をテーマのひとつに加え、ルールの見直しとその徹底、そして例外を許さない雰囲気皆さんと共に作ってまいりたいと思ひます。